



発行者

島根県健康福祉部

医療政策課医師確保対策室

今回の紙面

地域医療最前線 NO.41 《杉原建 理事長》
研修医のページ NO.25 《安食春輝 先生》
しまね地域医療の会

看護師さんのページ NO.21 《加瀬部初恵さん》
島根大学「地域医療支援学講座」NO.4
若手医師県内定着対策



理事長 杉原 建

社会医療法人昌林会
安来第一病院地
域
医
療
最
前
線

NO.41

社会医療法人昌林会は安来第一病院を中核施設として介護事業所等13事業所を開設する法人です。スタッフは615名で安来市を中心とした島根県東部の人々が安心して暮らせるように必要な保健医療福祉サービスの提供に努めています。関連法人として社会福祉法人せんだん会があり、スタッフ290名で11事業所により福祉サービスを提供し、昌林会と車の両輪の関係です。

社会医療法人は平成18年に医療法の改正において、地域住民にとって不可欠な救急医療等確保事業を担う、公益性の高い医療法人として制度化されたものです。日赤、済生会に準じた公的医療機関とされています。全国で本年1月現在116法人が認定されています。昌林会は平成21年1月1日に認定されました。

年2月の開設であり、以来63年の歩みを続けています。開設当初より、精神科と一般診療科を併設し、時代時代に必要な地域医療の提供に努めて参りました。現在許可病床数394床の病院です。

現在の診療科目は、精神科、内科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、整形外科、乳腺外科、腫瘍内科、泌尿器科、皮膚科、小児科、呼吸器外科、外科、となりました。

特にリハビリテーションにおいては、病院を中心にPT38名、OT30名、ST8名の76名体制が構築でき、脳神経外科の医師を中心に山陰一の体制づくりを目指しています。

ところで、安来市における医療の課題を考えると、他地域と同様に、医師、看護師不足です。



幸い、現在は地域医療、病院医療の崩壊には至ってはいませんが、樂觀できるものではありません。

りません。当院では島根大学の5年生、鳥取大学の6年生を実習に受け入れています。その人達に将来山陰に留まるかをたずねることにしていますが、よい回答は得られません。このまま推移すれば将来島根県全域で医師不足により地域医療にとって極めて困難な状況が予測されます。

先般、医療崩壊の進行した地域と言われる、宮崎県延岡市における地域医療を守るための地域での取り組みを知る機会がありました。延岡市では深刻化する地域医療の危機に際して、市民、医療機関、行政が総力を結集してそれぞれの役割のもとで地域医療を守ると、市条例を定めています。

私は地域医療を守るためには、長期的視野にたてば、将来地元で働く医師をいかに育てるかに尽きると思います。住民の多くの方が、自分のかかわりのある子供達を医師や看護師に進むように育てる、また学校においても、医師や看護師に関する情報を児童生徒に十分提供し体験学習の機会をつくる、行政においても奨学金制度をはじめ支援制度等の充実をはかる等、住民、医療機関、行政が一体となって地域の医療を守るための懸命の努力が求められます。

昌林会におきましても、住民の皆様

が安心して暮らすことができるように
保健医療福祉サービスの提供に最善を
尽くすと同時に、地域の医療を守る活
動の旗振り役も務めて行きたいと決意
しています。

看護師さんのページ
NO. 21

飯南町訪問看護ステーション

訪問看護師 加瀬部 初恵

飯南町訪

問看護ステ

ーションは、

平成6年10

月に開業し

た事業所で、

中山間地域

の飯南町を

拠点とし、雲

南市の一部

(旧掛合町、

旧吉田村)にもサー

ビス提供を行っ

ています。

看護師5名と理学療法士1名によ

り、24時間対応できる体制を整えて

おり、夜間・休日対応に備え、常勤

看護師2名が専用携帯電話を所持し



て待機し、地域住民の皆さんが少し
でも在宅で安心して快適な生活が送
れるようお手伝いさせていただいて
います。

利用者の多くが老人世帯で、その
年齢は64～107歳、平均年齢が85
歳と著しく高齢者の割合が高く、最
近は、筋萎縮性側索硬化症、パーキ
ンソン病等の難病の患者さんも増え、
高齢化と重なりだんだんと重症化し
ている状況です。

今年の飯南町の冬は例年にも増し
て大雪にみまわれ、自分たちの生活
が大変なものにもかかわらず、訪問し
た際には私たちのことを気遣い、心
温かく迎えて下さいました。

私たちは、利用者の生活の一部を
支える事はできても全てを支えるこ
とはできません。また、医療だけの

支援では在宅
における
生活は成り
立ちません。

本人をはじめ
サポーター
するすべて
のスタッフ
との連携が
とても重要
になってき



ます。限られた地域の限られた資源
の中ではチームワークがとても大切
であり、「顔の見える関係を大切に
に！」をモットーに、できる限り訪
問し、お互いに情報交換を行いなが
ら、共に考えていく事を心がけてい
ます。

本人をはじめサポーターするスタッ
フが、いつでも何でも気がねなく相
談でき、一緒に悩み、考えていただ
ける医師が在宅医療を支える要であ
ることは言うまでもありません。私
たちは利用者の状態が変化した場合
には、医師の診察を要するのか、ま
たは経過を見てよいのかの判断が必
要となります。その際、私たちは飯
南病院の先生方に相談します。そし
て、的確な指示をしていただいた時
の医師の声は、真に神の声に聞こえ、
それまで抱いていた不安は吹き飛び、
本人や家族にとって頼りがいのある
看護師に大変身できるのです。

厳しかった冬も終わり、ここ飯南
町にも春の訪れがすぐそこまでやっ
てきています。豊かな自然の中で、
心温かい人たちに囲まれて、私たち
と一緒に仕事をしていただ

ける熱意のあるみな
さん！飯南町で一緒に
働きませんか！！



のページ

NO. 25

大田市立病院

2年目研修医

安食 春輝



平成22年4月

から1年間、大田

市立病院で初期臨床研修を行いました。

当院は大田圏域の中核病院としての
機能を担っている病院ですが、私
が赴任する前年に外科、整形外科の
常勤医の先生が退職され、病院全体
としても救急告示を取り下げるなど、
診療体制がそれまでと大きく変わる
過渡期でした。

不安もある中でのスタートでした
が、赴任後に当院の医療に携わり感
じたことは、病院全体としての機能
が低下している中でも、スタッフの
方々の情熱は何ら変わりがない、と
いう点でした。

私の様な新人の指導にも、非常に
熱心に対応していただきましたし、
病院の現状への思いや将来に向けて
の話を指導医の先生方から伺い、「今
できる医療を精一杯行っ」ことの

切さを学ぶことができました。ほとんどゼロ地点からスタートし、日々一つでも多くのことを身につけようとする姿勢が必要な私たち研修医には、当院のベテランの先生方の姿は大変励みになるものでした。

私は初期研修を終えたのち、泌尿器科医を目指すこととしました。大田市立病院では泌尿器科は常勤医2名の体制で、外来患者さんの初療対応と検査計画の立て方、入院患者さんの管理、手術前の状態把握、プレゼンテーション、実際の手術手技、泌尿器科に特徴的な検査手技、透視治療の基礎知識等、とても多くの内容を勉強することができました。

他科の研修でも、当院では指導医の先生方は適度に距離をおきながらも、常に目を光らせていただいていた。混合医局のため他科の先生との意見交換もしやすく、それも多分野にわたって学ばなければならぬ初期研修には有利な点であったと思います。

当院には小児科、産婦人科、麻酔科、放射線科等、常勤2名の体制の診療科は他にもあり、内科、皮膚科などでも将来的に救急外来で遭遇するであろう症例に触れることができると感じます。

本年度の研修医は私1人でしたが、多くの研修医に大田市立病院を訪れ、新しい風を吹き込み、そしてこの病院の空気を吸い込んでいただくことを願っています。

島根大学

「地域医療支援学講座」

【NO.4】

「一年を振り返って」

島根大学「地域医療支援学講座」

助教 布野 慶人

救急救命士である私が、出雲市消防本部より派遣され、就任後一年が経過しました。地域医療支援学講座の業務で感じたこと、今後の救急救命士として、そして消防サイドとは異なった観点からお話したいと思っています。

救急救命士としての業務は初期救急医療に関する出前講座・講演を県内の病院に向いて行っており、院内においてもBLS講習・ALS講習を実施しています。また、各救急標準化プログラム研修(AHA BLS・ACLS・JPTC)も開催し、医学生や研修医および看護師の方に受講していただき初期救急医療

の重要性を少しでも理解していただけるよう活動しています。

この一年を振り返ると、上記に述べた救急に関する業務はもろろんのこと、医学生および研修医の支援や県内の医師確保対策など、消防の範囲を超えた業務を経験する中で、島根県の医療状況は極めて厳しいことを痛感しました。



院内でのBLS研修

急隊員のなすべきことのひとつとして「救急救命士の教育」があります。これまでの教育は医師および看護師等による教育が大部分を占めています。MC教育および医学的監修の必要性から今後も不可欠ではありますが、全てを医師・看護師等に頼るのではなく、救急救命士にできることは自ら行えるようシステム整備および学問構築を行い、救急医療に携わる医師・看護師等の多大な労力と時間を少しでも軽減することが必要だと考えます。

さらに、救急救命士も病院前救急医療の柱にとどまらず、地域における救急医療の充実を担うべきと考えます。救急救命士を必要としてくれている医学生・医師およびコメディカルの方たちのために、初期救急医療を通して引き続き支援していきたいと思えます。



標準化プログラム研修

しまね地域医療の会

平成23年2月26日(土)に「しまね地域医療の会」を出雲医師会館で隠岐病院とTV会議で結び、49名の参加を得て開催しました。この会は、自治医科大学卒業医師や赤ひげバンクを通じて県内に着任された医師等が相互に情報交換をする場です。

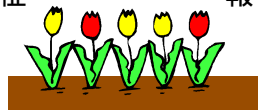
今回は、自治医科大学より中村教授、公益社団法人地域医療振興協会より中島常務理事など5名の来賓にお越しいただき、それぞれの団体の状況について情報提供をしていただきました。

県からは、平成22年度の医師確保対策の取り組み状況として、県外からの医師招聘実績21名や奨学金の貸与実績など、また若手医師の県内定着を促進するためのキャリア支援プログラムや平成23年度早期導入を予定しているドクターヘリについても併せて報告しました。

報告後、ドクターヘリに対する期待、患者情報の共有を図るネットワークづくりの必要性など、地域医療を確保していく取り組みについて積極的な意見交換が行われました。

また、各地域の医療現場で活躍す

る医師からは、取組状況や次年度に向けた体制などについて報告されました。



厳しい医療情勢ではありますが、島前病院では関係諸機関との強い連携の中で、保健・医療・福祉サービスをシームレスで提供できる

ような取組や、研修医、医学生、看護学生等に対する充実した地域医療研修などの情報をブログにより発信され、看護師等医療従事者確保につながり始めたことなどの情報提供がありました。

この会終了後、会場を移して懇親会を開催し、会員相互の情報交換や親交を深めることができました。

【医療政策課 福屋】

若手医師の県内定着を目指して

2月20日(日)、出雲市内において、島根県臨床研修病院連絡会議が開催されました。島根大学卒業臨床研修センターの主催により、松江市立病院、松江生協病院、松江赤十字病院、島根県立中央病院、大田市立病院、浜田医療センター、益田赤十字病院及び県が一堂に会し、地域医療教育の状況や医学生に対する意識

調査の結果、県からの取組の提案などを踏まえ、より魅力ある研修プログラム構築に向けて、意見交換が行われました。

その後会場を移し、島根大学の5年生を対象に、『マッチングシステム説明と島根大学附属病院及び関連病院の先輩医師と語る会』が開催されました。これは、県内で研修を行う先輩医師の生の声を聞き、島根の医療をより身近に感じてもらい、進路選択の参考としてもら

うことをねらいとしたものです。医学生からの要望を受け、島根大学において新たに企画され、臨床研修病院とのコラボレーションにより実現しました。先輩医師から、『どこで研修をするかより、何をしたいのかを明確に』というメッセージと共に、医療の最前線で治療の知識や技術の修練を積む医師としての力強い言葉が数々聴かれ、頼もしさを感じるひと時でした。



医師の話に聴き入る参加者

【医療政策課 藤井】

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人等に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供し、県内での勤務を支援します。

医師募集・地域医療ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアーを実施しています。旅費は県が負担します。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

TEL 0852-22-6683 FAX 0852-22-6040

E-Mail iryuu@pref.shimane.lg.jp

ホームページ：

島根の医師確保対策

検索

